

ヨシナカ新聞

4月号

発行所
榊北陸ヨシナカ
東京営業所
TEL:03-3555-0796

アートフェア東京

「チケットが手に入ったので行きませんか」と大阪勤務の方からチケットを譲っていただき、3月10日(土)に東京駅の近くにある東京国際フォーラムで開催された【アートフェア東京 2018】に行ってきました。

アートフェア東京は、毎年春に東京で開催されている国内最大級の国際的なアート見本市で、国内外の厳選されたギャラリーが出展、古美術・工芸から、日本画・近代美術・現代アートまで、幅広いジャンルの作品が展示・販売されていました。



13回目の開催となる今年のメインテーマは「Paints」。

「色」をこすり落としたり、薬剤を使用すると除去しやすくなります。この場合は、ステンレスの表面にこすり傷がつくことは避けられません。清掃後、再度研磨仕上げをやり直すなどの処置が必要になります。(ステンレス協会ウェブサイトより)

「色」をこすり落としたり、薬剤を使用すると除去しやすくなります。この場合は、ステンレスの表面にこすり傷がつくことは避けられません。清掃後、再度研磨仕上げをやり直すなどの処置が必要になります。(ステンレス協会ウェブサイトより)

ステンレス豆知識

赤さび

「もらいさび」をそのまま長期間放置するとステンレス自身の「さび」に進展します。また塩分やその他の有害成分による「さび」の場合もそのまま放置すると、茶褐色の厚い「さび」に変わっていきます。

このような状態になる前に手入れをすることが必要です。このような状態の「さび」を除去するには、市販の清掃薬剤のうち「ひどい赤さび」や汚れ用が必要となります。これらの薬剤でもなお「さび」が除去できない場合は、予めサンドペーパーやステンレスブラシなどを使用する必要があります。

「しくじり動物大集合」(永岡書店)という本があることを知り、早速購入して読んでみましたところ、とても面白かったので紹介させていただきます。

著者は動物行動学と教育工学専門で400種類以上野生動物の生態や飼育方法を習得している新宅広二さん。過酷な自然環境に合わせたり、ライバルに負けないため、メスにモチたいために主力になった結果、突っ込みたくなるといったような進化を遂げた動物たちを紹介されています。

先ずは百獣の王ライオン。あの立派なタテガミはライオンの象徴となっていますが、ライオンはとても短気で仲間や兄弟同士でも激しいケンカをするためオスは怪我がたえません。そこで考えられたのが天然の防具。首には太い血管が皮膚のすぐ下にあり、この血管が爪に引っかかって傷つくと致命傷になるため、急所を守りやすいため、大きな首の首のタテガミが

着くようになりました。しかし、ライオンが住んでいるのは猛暑のアフリカやインド。猛烈な暑さの中で毛皮のマフラーのせいでバテバテになっています。だから首以外はスポーツ刈りの短毛。それでもさすがに暑いのか、普段はステテコ姿のお父さんのように木陰でダラけています。

桜の撮影

先日、ラジオを聞いていましたら、戦場写真家の渡辺陽一さんが、桜の写真撮影のコツを話されていました。渡辺さんが仰るには、桜全体をフレームいっぱい撮る方が多いような気がするが、そこを我慢して桜の周りの風景・建物や青空を取り入れるとより素敵な写真になると仰って

いました。また、淡いピンクの桜をよりピンクに撮影するコツも仰っていました。青空と対比させること、露出をアンダーにすることで、夕方(日暮前)に撮影することだそうです。私も挑戦してみました(右写真)。すこしピンクが映えたような気がしますが、ちょっと暗い写真になってしまいました。

